

# 千葉県保護上重要な野生生物 —千葉県レッドデータブック— 追録

## 第5号（平成28年5月）

### ○本号での変更

本号で行う変更は、次の3種です。詳細については次ページ以降を御覧下さい。

種名	変更内容	変更理由
ユメユムシテッポウエビ	Aとして新規追加	県内からあらたに発見された。
ハナゴケ	A-Bとして新規追加	過去に県内から採集された標本が発見された。
ナメラゴンゲンゴケ	A-Bとして新規追加	県内からあらたに発見された。

### ○本追録の位置づけ

千葉県では、保護すべき貴重な野生生物のリストである「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—」及び「千葉県レッドリスト」をおおむね5年の間隔で発行してきました。しかし、毎年のように未記録の野生植物の発見が報告され、5年の間隔では緊急時に対応できないことが明らかとなってきました。そこで平成22年度から、年一回、レッドデータブック・レッドリスト掲載種の追加、ランク変更、削除等を行い、追録として公表しています。

本追録は、緊急を要する絶滅危惧生物のランクの改訂等を掲載し、広く県民に最新の情報を伝えることを目的としています。このため、冊子体のほかインターネットによる公開を行っています。

### ○レッドデータランク等について

本冊子でランク変更、追加、削除がなされた種については、本冊子の記述が優先し、以前に発行された「千葉県レッドデータブック」及び「千葉県レッドリスト」の記述は無効となります。

千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—追録第5号（平成28年5月）  
2016年5月発行  
編集 千葉県希少生物及び外来生物リスト作成検討会  
発行 千葉県環境生活部自然保護課 〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号  
電話 043-265-3601 / ファックス 043-265-3615（千葉県生物多様性センター）  
URL <http://www.bdcchiba.jp/>

## A ヨメヨムシテッポウエビ テッポウエビ科

## 新規掲載

国：掲載なし

*Alpheus ikedosoma* Komai

千：無—無—無

【新規掲載理由】県内から新種として記載されたが、館山市北条海岸と南房総市多田良浜の二箇所では標本が採取されているだけである。砂質干潟に穴居するヨメヨムシと共生するが、ヨメヨムシが生息する砂浜や干潟が環境変化に対して脆弱であり、実際、全国的に消失が指摘されていることを考慮し、新規掲載することとした。

【種の特性】砂質干潟に生息するヨメヨムシ *Ikedosoma elegans* (Ikeda, 1904) の巣穴に、雌雄 1 ペアで共生する。額角が非常に短く、背隆起をまったく欠くこと、眼覆 (orbital hood) を区分する溝がないこと、尾節の背棘が微小であること、第 2 触角基節に棘を欠くこと、大鉗の縁辺に剛毛列を欠くことなどの特異な特徴により他のテッポウエビ種群 (*Alpheus brevirostris* species group) から識別できる。体色は全体に薄いピンク色で、雌の方がやや濃い。

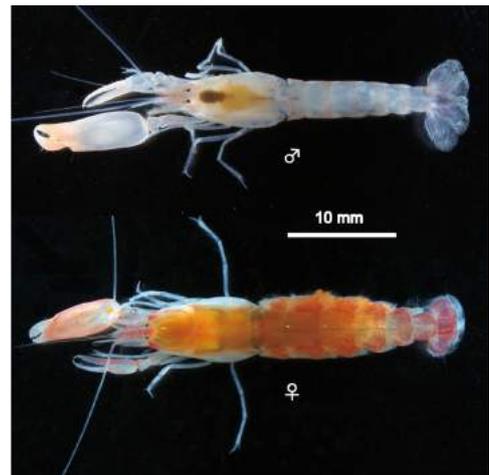
【分布】房総半島南部 (館山市北条海岸、南房総市多田良浜)、有明海 (天草市本渡干潟、宇土市御興来海岸)。

【県内の状況】館山市の北条海岸で採集された標本に基づき、2015 年に新種として記載された。北条海岸においても、突堤の近くの波当りの弱い干潟部分から採取されているのみである。南房総市の多田良浜でも 2013 年に標本が採取されたが、2014 年及び 2015 年に行われた調査では生息が確認されていない。

【保護対策】本種とヨメヨムシの共生は密接なものと考えられ、本種の保護のためにはヨメヨムシ個体群の保護を考慮しなければならない。ヨメヨムシは砂浜や砂質干潟に穴居するが、底質を形成する砂や泥の組成の変化がその生息に大きな影響を与えることが予想される。また、砂浜環境は沿岸流の変化や小規模な開発により容易に消失する可能性があり、生息地の維持が重要であると考えられる。

【文献】Komai, T. 2015. A new species of the snapping shrimp genus *Alpheus* (Crustacea: Decapoda: Caridea: Alpheidae) from Japan, associated with the innkeeper worm *Ikedosoma elegans* (Annelida: Echiura: Echiuridae). *Zootaxa* 4058:101–110.

【写真】2015 年、館山市北条海岸。ホロタイプ♂(上)、アロタイプ♀(下)、千葉県立中央博物館所蔵 (CBM-ZC 13128, 13129) / 駒井智幸



(駒井智幸)

## A-B ハナゴケ ハナゴケ科

## 新規掲載

国：掲載なし

*Cladonia rangiferina* (L.) F.H. Wigg

千：無—無—無

【新規掲載理由】 県内で約 40 年前に採集された標本が最近発見されたが、目立つ種であるにもかかわらず、近年の調査では産地周辺においても発見されていない。千葉県は主な分布域から外れており、生育しているとすればきわめて希少な存在であるとともに絶滅に瀕していると判断されることから、新規掲載することとした。

【種の特性】 地上生の樹状地衣。高さ 5～10cm。不等長二分枝を繰り返し、複数の子柄が集合し全体が半球形ないしくッション状のマットを形成する。子柄の表面には皮層がなく光沢はなく、白色から淡灰色。鱗葉を欠く。K—、P+ 橙赤色、フマールプロトセトラール酸を含む。

【分布】 北海道～九州。北半球に広く分布する。主に山地帯から高山帯。

【県内の状況】 昭和 50 年に東京大学千葉演習林（君津市）で採集された標本が発見され、2015 年に報告された。ここ数年の同演習林における調査では生育が確認されておらず、絶滅に瀕している可能性が高い。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つことが望まれる。

【文献】 吉川裕子・原田浩. 2015. かつて清澄山（千葉県）で採集された地衣類標本. *Lichenology* 13(2):71-81.

【写真】 2008 年，長野県／原田浩



(原田浩)

## A-B ナメラゴンゲンゴケ ウメノキゴケ科

## 新規掲載

国：掲載なし

*Hypotrachyna adducta* (Nyl.) Hale

千：無—無—無

【新規掲載理由】 最近の調査によって県内における分布が報告されたが、その分布域は狭く、また限られた環境でのみ確認されていることから、県内においてはきわめて希少であり、絶滅に瀕していると判断される。よって新規掲載することとした。

【種の特性】 樹皮着生。小～中形の葉状地衣で、不規則に分枝する。裂片は丸く、先端はわずかに斜上し、全縁または波状となる。背面は灰白色から灰緑色、裂芽・粉芽・パステュールを欠き、直径 0.2～3.7 mm の裸子器を密生する。縁部はシリアを欠く。腹面は褐色からほぼ黒色で、二分枝をした偽根を密生する。皮層 K+黄色、髓層 K—（あるいは K+紫）、C—、KC—または +淡桃色、P+橙色。アトラノリン、プロトセトラール酸、ジロフォル酸、ビレンス酸を含む。

【分布】 千葉県、静岡県、京都府、広島県、徳島県、愛媛県、高知県、宮崎県。日本、台湾、中国、フィリピン、インド（ヒマラヤ）、ネパール、タイ、パプアニューギニア。国内では暖温帯から冷温帯最下部（あるいは中間温帯）の山地から知られる。

【県内の状況】 最近の調査により東京大学千葉演習林（君津市・鴨川市）で発見された。モミ林においてモミの落枝に付着していた個体が採集されたことから、林冠部に生育するものと考えられる。立地は、稜線上のモミの大径木が多いモミ林である。同様の環境は高岩山系などに限られるが、本種は確認されていない。

【保護対策】 生育地の環境を良好に保つことが望まれる。

【文献】 吉川裕子・原田浩・王立松. 2015. 日本産 *Hypotrachyna adducta* ナメラゴンゲンゴケ（和名新称）（ウメノキゴケ科地衣類）の形態と化学成分. *Lichenology* 13(2): 63-70.

【写真】 2011 年，千葉県君津市。千葉県立中央博物館所蔵標本（CBM-FL-30401）／原田浩



(原田浩)